

2014 年度 学校関係者評価  
報告書

学校法人東京滋慶学園  
ベルエポック美容専門学校

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校

第 1 回学校関係者評価委員会報告書

報告書作成者:東 健一

1. 開催日時 平成 26 年 6 月 12 日(木) 15:00～17:30
2. 開催場所 学校法人東京滋慶学園 赤堀製菓専門学校 会議室
3. 参加者 学校関係者評価委員

(氏 名)

正宗 卓	業界関係者(有限会社 西洋髪結 代表取締役)
我妻 優子	卒業生代表(ベルエポック美容専門学校美容師科卒業生)
山元 貴子	卒業生保護者代表
峰 茂治	在校生保護者代表
穂浪 重夫	高校関係者(元拓殖大学第一高等学校 教諭)
鈴木 利昭	近隣関係者(原宿3丁目町会 副会長)

学校側参加者

中村 道雄	学校法人 東京滋慶学園	理事長
小川 昭久	同	評議員
前川 昭男	ベルエポック美容専門学校	学校長
岩村 勇	同	事務部 事務局長
藤本 拓也	同	教務部 美容師科学科長

学校側参加者(オブザーバーとして参加)

鈴木 恭雄	同	事務部 キャリアセンター長
東 健一	同	事務部 学生サービスセンター長

4. 会議の概要

- (1) 学園関係者の紹介
- (2) **理事長**挨拶と学園の教育理念について
- (3) 委嘱状交付 代表授与
- (4) 理事長より法人の沿革と法人の事業計画について
- (5) 各委員ご紹介
- (6) 委嘱状交付 全委員授与
- (7) 平成 25 年度自己点検・自己評価結果報告  
及び平成 26 年度重点目標の説明
- (8) 質疑応答及び審議

(学校関係者評価委員からの意見)

評価項目	学校関係者評価委員の評価点 (平均) 3. 優れている 2. 適切 1. 改善が必要	評価委員の意見
1. 教育理念・目的・育成人材像	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念は簡潔で分かりやすい。また、教育理念を基に職業教育を行っている。</li> <li>・具体的な目的をもって教育にあたっていることがわかる。</li> </ul>
2. 学校運営	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単カ年の学校運営のみならず、5年後・10年後の計画的な学校経営は職員の組織化を強固にしていると感じた。</li> <li>・判断基準が明確になっているので、問題が起こった際でも何事もなく解決する力があると思われる。</li> </ul>
3. 教育活動	2. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業満足度アンケートの内容は適時実施され、講師には適切なフィードバックがなされている。</li> <li>・授業アンケートをこなしているだけではなく、そこから見えてくる問題についても目を向けていくことで、アンケート実施の本来の目的が活かされていくと思う。</li> <li>・学内コンテストが把握できていることはわかる。しかし、外部業界主催のコンテストについては、学校として積極参加をしていない。外部評価を取り込むことも教育の一環として捕らえることが重要と考える。</li> </ul>
4. 学修成果	2. 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援は結果が物語るように問題はない。</li> <li>・資格取得についても、自己評価の中にあるように常に全員合格を目指すことはよい。結果が追いつくようにしていく努力が必要であると考えている。</li> <li>・卒後のつながりの希薄さを感じる。卒業生の支援体制だけを問うのではなく、在学中からの関わりも含めて考える必要があると思う。</li> </ul>
5. 学生支援	2. 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一通りのことはできていると思う。</li> <li>・留学生の入学者が一昨年から発生したとのことで、留学生をケアしていくノウハウの蓄積がないことが伺える。この点については最低でも法令遵守は当然であるが、留学生のニーズも聞き入れていくことで、留学ケアの質の向上が見込まれると思う。</li> <li>・外部との連携については、更なる拡充が必要であると感じた。</li> </ul>

6. 教育環境	2. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教具について経年劣化しているものがあるようだが、迅速な修理によって授業には影響がないとのことだが、長期的な計画の中に教具の項目を加えて、入れ替えを適宜、行うよう検討することが妥当である。</li> </ul>
7. 学生の募集と受け入れ	2. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の実態と募集活動における紹介の内容に差異はない。</li> <li>・ 受験者の不利益にならないよう運営することが大切。これは、入学辞退者の対応にも同じことが言える。</li> </ul>
8. 財務	2. 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務状況についての把握はできているが、専門部署からの受身の状況把握にとどまっているように感じる。</li> <li>・ 学校としての中長期的な事業計画の中での収支計画は確立しているが、学園の状況まで把握できていない。</li> </ul>
9. 法令等の遵守	2. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法令遵守の点では、厚生労働省所管の学科があるので問題なく運営されている。</li> <li>・ 法令遵守に関しては学内でも担当者のみが深く関わり全体への理解が乏しいように思われる。学校職員の全体周知だけではなく理解を深めていく必要があると思われる。</li> </ul>
10. 社会貢献・地域貢献	1. 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校から地域に向けての発信がない。</li> <li>・ 外部からの依頼など受身の関わりになっている。</li> <li>・ 学内サロンのど展開しているが、あくまでも教育主体となっており、社会貢献・地域貢献とはいいいがたい。</li> </ul>
意見の活用		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 26 年度については、重点項目にも掲げているとおり、「人間性教育の徹底」「実践的な経験が積める教育環境の整備」「企業連携による離職率の低下」を目指していく中で、受身の運営ではなく、学校発信の積極的な取り組みを実施する。</li> <li>・ 各項目の意見集約をすると、細部の詰めをおろそかにしないという意識で業務に取り組むことで評価はあがってくると考えている。</li> </ul>		